

出て行かんと、むしって朝飯に食ってしまうぞ。うまそうだな。」ゴーシュはどんと床をふんで言いました。するとカッコウは、にわかにはびっくりしたように、いきなり窓をめがけて飛び立ちました。そして慌てたのでガラスに激しく頭をぶっつけて、バタッと下へ落ちてしまいました。「何だ、ガラスへぶつかっていくなんてバカだなあ。」ゴーシュは慌てて、立って窓を開けようとしたが、元来この窓はそんなにいつでもスルスル開く窓ではありませんでした。ゴーシュが窓のわくをしきりにガタガタしているうちに、またカッコウがバツとぶつかって下へ落ちました。見ると、くちばしのつけねから少し血が出ています。「慌てるな。今あけてやるから待っているったら。」ゴーシュがやっと少し窓をあけた時、カッコウは起きあがって、何が何でも今度こそというように、じっと窓の向こ

うの東の空をみつめて、あらん限りの力をこめたようにパッと飛びたちました。もちろん今度は前よりもひどくガラスにつきあたってカッコウは下へ落ちたまましばらく身動きもしていませんでした。つかまえてドアから飛ばしてやろうとゴージュが手を出したら、いきなりカッコウは目をひらいて飛びのきました。そしてまたガラスへぶつかってしまいま